

韓国環境部プレスリリース 2020年3月12日付

京畿道と江原道の野生いのししから ASF ウイルス検出（野生いのしし 350-355 例目）

<http://www.me.go.kr/home/web/board/read.do?pagerOffset=0&maxPageItems=10&maxIndexPages=10&searchKey=&searchValue=&menuId=286&orgCd=&boardId=1351705&boardMasterId=1&boardCategoryId=&decorator=>

□環境部所属国立環境科学院(院長チャン・ユンソク)は3月11日江原道（カンウォンド）華川郡（ファチョングン）華川邑（ファチョンウプ）および上西面（サンソミョン）、京畿道（キョンギド）漣川郡（ヨンチョングン）新西面（シンソミョン）および旺澄面（ワンジンミョン）、坡州市（パジュシ）郡内面（クンネミョン）で発見された野生いのしし死体6個体から ASF ウイルスが検出されたと3月12日明らかにした。

□国立環境科学院は3月12日死体6個体から ASF ウイルスを検出したことを関係機関に通知した。これで華川郡（ファチョングン）140件、漣川郡（ヨンチョングン）122件、坡州市（パジュシ）71件、鉄原郡（チョルウォングン）22件、全国で合計355件の野生いのしし ASF 陽性事例となった。

○野生いのしし ASF 標準行動指針により試料採取後現場消毒と共に死体を処理した。

□国立環境科学院は「今回確認された死体は全て広域フェンスの中で発見され、その地点は既存感染個体発見地域から200～700m離れたところであった。この地域では感染死体がさらに出てくる可能性が高く、捜索を強化して死体を速かに除去する」と明らかにした。

以上